

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-------------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 4190200255 | | |
| 法人名 | 有限会社ケアマエカワ | | |
| 事業所名 | グループホーム でこぼん | | |
| 所在地 | 佐賀県唐津市浜玉町南山1793-1 | | |
| 自己評価作成日 | 令和 4年 9月 6日 | 評価結果市町村受理日 | 令和4年12月8日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/ |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|-------------------|
| 評価機関名 | 公益社団法人 佐賀県社会福祉士会 |
| 所在地 | 佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号 |
| 訪問調査日 | 令和 4年 10月 14日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

小高い山の中にあるグループホームでこぼんは、周囲にはみかん畑が広がり、四季折々の自然に恵まれた環境にあります。ホーム内の畑で利用者様やスタッフと花や野菜を栽培して収穫している。ここ数年はコロナ禍で地域の方々との接触が困難で、書面で施設運営状況をお伝えし、交流している。事業所の理念「敬愛・献身・思いやり」は、人生の先輩である入居者の方々だけでなく、地域住民の方々へ込められた理念でもあります。入居者の方に対してそれぞれの個性を活かし、ホーム内での生き生きと、そしてのびのびと生活していただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山間部の周囲をミカン畑に囲まれた、閑静な環境の中にあるホームである。系列のグループホームや有料老人ホームが併設されており、コロナ感染症拡大前は、職員相互の交流、研修する場も設けられていたが、現在は感染症対策として中止されている状況である。近隣との関係も同様であるが、その中でいかに入居者に楽しみをもっと生活してもらえるか日々検討し、理念の実現に向け努力されている。職員間の関係もよく、入居者を常に中心におき、入居者の“そばにいる”ことを徹底されている。コロナ禍、今後の地域との関係、入居者の生活のあり方等、様々な課題の解決に向け前向きに努力されているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|--|--|----|---|--|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|---|-----------------------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 「敬愛・献身・思いやり」の理念を玄関に掲示し、毎朝の申し送り時やミーティング時に復唱し、職員が皆、理念の実施に向けて取り組んでいる。 | 「敬愛・献身・思いやり」という理念は、毎日唱和され確認されている。日々の業務の中で気になる事があれば、その都度ケアマネジャーを中心に話し合う等、理念を実践していく道筋ができています。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | ホーム内の畑の花の苗を地域の方から寄付して頂いたり、しだれ梅の剪定をしていたり、収穫したものをおすそ分けしたりして地域との関わりを密にとっている。現在はコロナ禍で交流できていない。 | コロナ感染症の拡大防止のため、近隣とはコロナ前のような交流は図れなくなっている。地域のホームへの認知度も高く、近隣との挨拶等は普段通り行われている。今後の地域の関わり方といった点でも、ホームで検討を行っている所である。 | コロナ禍でも継続できるような、地域との関わり方の工夫に期待したい。 |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議に出席された地域の方達(区長、民生委員等)と認知症についての話し合いの場を持ち、勉強会も実施し、情報共有している。現在はコロナ禍で実施できていない。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | コロナ禍で運営推進会議を中止している。現在は運営推進会議メンバーに運営状況を書面にして送付し、送付した内容についてコメントを頂いている状況。今後も継続していく。 | コロナ感染症対策として書面での運営推進会議を継続実施されている。ホームの現状や行事報告は行われているが、委員からの意見等が得られにくい面があり、今年度より意見聴取のための様式を用意し、議題と一緒に送付し、助言・意見等を得られやすいよう工夫されている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 運営推進会議の場を活用し、担当者との連携を密に取り、更に月に1度、市委託の介護相談員の方に来所していただいた際に相談したり意見を聞いたりして協力をしていただいている。介護相談員の来訪もコロナ禍で中止している時もあり。 | 運営推進会議を経た意見の聴取やホームの現状報告はできている。困りごとがあれば、市担当者へ相談する等、連携は常日頃よりできている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | ホームセキュリティを活用し、安全面で配慮し、センサーで常時、把握できるようにしている。 | 玄関の施錠を含め、現在身体拘束となるような事案はない。身体拘束とは何か、またそれがもたらす弊害等について、職員は理解できている。コロナ禍の影響により外部への研修の参加の機会がなく、今後オンライン等を利用した、職員の研修機会を検討中である。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 研修などで学ぶ機会を持ち、ミーティング時に職員と共に共有し、防止に努めている。コロナ禍以前は研修会を実施していたが、現在は中止している。集団にならないように動画研修を実施中。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 研修などで学ぶ機会を持ち、ミーティング時に職員間で情報を共有し、理解に努めている。実際に成年後見制度を利用されている方もいるので、事業や制度内容を勉強している。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約書等の説明の際、疑問点などないか確認しながら理解・納得を図っている。入居後もその都度、何かあれば、いつでもご質問いただけるよう声かけしている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 玄関先に意見箱を設置しているが、コロナ禍で運用していない。ご家族様が窓越し面会に来られた際やお電話をした時に状況を伺い、運営に反映している。利用者様からはその都度、頂いたご意見は反映している。 | 制限はあるものの窓越しの面会や受診時、電話連絡の際に家族とは話す機会を設けられている。意見や要望があれば、ホームで話し合い、運営に反映できるものは反映されている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | ミーティング等で提案してもらう機会を設け、運営に反映している。 | 月1回のミーティング時に、全体で情報を共有し、意見を出せる場を設けられている。入居者を中心に置き、ちょっとした気づきでも話し合い、意見を出せる雰囲気作りにも努められている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 社会保険労務士に相談しながら、働きやすいように職場環境を整備している。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 運営推進会議時に行われる勉強会には職員も参加出来る体制にしている。ホーム外での研修については、研修会の情報を提供し、積極的に参加を促し、参加してもらっている。現在は、コロナ禍で中止している。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 唐津市内のグループホームの連絡会に参加しており、共に情報提供の場としての疑問点・改善点などを話し合い、サービス向上に取り組んでいる。連絡会も現在、中止となっている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | ご本人様の意向を聞き、ケアプランを作成し、説明を行っている。(同意していただいたら、サイン・印をもらうようにしている。) | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ご家族様の意向を聞き、ケアプランを作成して説明し、同意(サイン・印)をいただいている。遠方のご家族様には、郵送して理解をしていただき、同意をしていただいたらサイン・印をして返送いただいている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 入居時にご本人様とご家族様と面談を行い、意向を伺い、その時に応じた対応を行っている。(病院受診が必要な場合は、家族が難しい場合など当ホームスタッフで対応している。) | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | スタッフは入居者の方に対し、人生の先輩であるという尊敬の気持ちを忘れず、いろいろな事を教えていただきながら関係を築いている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 普段からご本人様のことをご家族様と話をさせていただく中で、これまでの出来事や生活面、要望等を伺い、関係を築き、ご家族様と共にご本人様の支援を行っている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 気兼ねなく面会に来てもらえるような家庭的な雰囲気作りに努め、外出時は希望に添うようにしている。現在は、コロナ禍のため、面会は中止している。 | コロナ感染症の感染防止のため、対面での面会は中止されているが、家族や知人との窓越しの面会、電話や手紙での交流を支援する等、関係の継続に努められている。また、限られてはいるが、通院時に病院で家族と会う機会は継続されている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 職員が入居者様の間に入り、コミュニケーションがスムーズにいくように心がけ、対応している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 病院や施設等への転院、移動してもお見舞いをしてご家族様へも連絡をとり、経過を確認している。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | ご家族様からの情報や日々の生活の中で入居者様の生活パターンや個性を把握し、ご本人様の意向に添えるように支援している。 | 思いを伝えることができる入居者は、個別でゆっくり話をする時間を設け、思いの把握に努められている。困難な場合は、元気だった時の本人の意向や家族からの聞き取り等、本人本位に検討し、意向に沿うよう支援されている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | ご本人様、ご家族様から、これまでの生活状況を聞き、把握することでサービスに反映できるように努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | アセスメントを行い、それを基にケアプラン作成して日々の様子を介護記録やモニタリングして把握している。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 介護計画は月に1回、ミーティング時にスタッフからや担当職員の1ヶ月に1回のモニタリング、入居者の方々、ご家族様の意見を取り入れ、ご本人様の意向を踏まえた計画をしている。 | 毎月のモニタリング、評価を行い、ケアプランの原案を作成し、家族の面会時や電話の折に説明を行い同意を得られている。原則は家族も参加しての担当者会議を開催されているが、コロナの影響で別々での開催、聞き取りとなっている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 1ヶ月ごとのモニタリングの他、問題が発生した時は随時会議が行われ、現状に即した介護計画を作成している。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 入居者様の要望に応じ、外出や通院も個別に対応しており、ホームの柔軟さを活かした支援を行っている。外出に関してはコロナ禍のため、敷地内や近隣の散歩としている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 民生委員、ボランティア、警察、消防署の方々に協力していただき、安心して生活してもらえるようにしている。現在は、コロナ禍できていない。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居者様、ご家族様の希望を尊重し、入居前からのかかりつけ医を可能な限り継続している。又、24時間体制での協力医療体制も整備しており、適切な医療が受けられるよう支援している。 | 入居時に聞き取りを行い、入居者、家族が希望するかかりつけ医の下で、適切な医療が受けられるよう支援されている。通院はホームで対応され、医療情報は家族と共有されている。また、協力医療機関とは24時間連携できる体制がとられている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 看護師を配置し、健康管理を行い、状態変化があれば、その都度対応している。夜間もオンコールで24時間対応している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 現在、コロナ禍で入院中の面会ができないため、ご家族様に連絡が来た際には連絡をいただけるようお願いしたり、こちらから病院へ連絡を取り情報交換を行い、退院に向けての対応を行っている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居者様が重度化した場合の対応や終末期の在り方についてはホームの指針を説明し、承諾書を作成してご家族様、主治医、職員と共に方針を共有している。 | 入居時にホームの指針を説明し、承諾書をとられている。重度化した場合は、主治医を交え話し合いの場を持ち、家族の希望に応じ、ホームでの看取りにも対応できる体制がとられている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 緊急時対応マニュアル等を作成し、ミーティング時に勉強会を行っている。また、消防の方にも来所していただき、心肺蘇生法などの訓練も行っている。(コロナ禍で中止している。) | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年に2回の定期の消防訓練を(消防署による)を実施している。 | 夜勤者も含めた夜間想定避難訓練が年2回実施され、電気機器の清掃を含め、日頃から火災を未然に防ぐよう努められている。また、災害用に食料品や水等の備蓄も行われている。しかし、地域との協力体制は十分ではない。 | 火災の他、自然災害も多い中にあり、近隣住民・地元消防団等、地域との協力体制を作っていくことが望まれる。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 入居者様のプライバシーの保護のために事前に職員からは守秘義務に関する同意書を取っている。また、日々の業務でもプライバシーを損ねないように意識づけを行っている。 | 羞恥心やプライバシーに配慮した言葉かけに努められている。気になる対応があれば、その都度お互いに注意し合い、入居者一人ひとりを尊重したケアを目指されている。書類関係は保管場所にて管理し、個人情報の保護に努められている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | ご本人様の思い、希望を尊重し、出来る限り、自己決定出来るようにしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 入居者様のその時々々の気分や状態に合わせて、起床時間や食事の開始時間を微調整するなど、入居者様一人ひとりに合わせた支援を行っている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 身だしなみに対しては訪問理容を利用したり、行きつけの理美容店に職員が付添うなどして、その人らしい身だしなみが出来るように支援している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 月に4回程度、食事レクリエーションを行い、入居者様の目の前で作り、入居者様にも作業して頂き、いつもの食事と違った雰囲気を楽しむながら楽しんでいただき、喜ばれている。 | 誕生会、クリスマス会等の行事食が用意されたり、日々の献立に入居者の意向を取り入れる等、ホーム手作りの食事を楽しませている。また、食事レクリエーションとして、入居者の能力に応じ、刻む、混ぜる、焼くという役割を用意し、作って楽しむ機会を持たれている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 毎食時の摂取量の把握と定期的な水分摂取量の把握をしている。メニューは季節の野菜を意識して野菜中心の栄養バランスが取れた食事を提供している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、個々の状態に合わせた援助を行っている。また、週に1回、希望される方は歯科医師や歯科衛生士による訪問診療、健康チェックがあり、口腔内をチェックしてもらい、指導・助言を受けている。(現在、コロナ禍で中止しているが必要時訪問診療をお願いしている。) | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。 | 歩行能力を高め、トイレへの移動を可能にする等、排泄の自立に向けたケアに努められている。また、排泄パターンを把握し、時間や本人の状態によりトイレへの誘導が行われている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 旬の野菜や繊維質の多い食事を使用した献立を心がけている。又、歩行訓練や体操、散歩を取り入れることで腸蠕動を促し、便秘予防に努めている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 入浴は月曜日から土曜日までの午前中に行っているが、入居者様の要望やその時の状態・状況によって曜日や時間を変更して対応している。 | 入浴は午前中にゆっくり時間を設け、職員と話をする機会にもなっている。入浴の順番や午後の時間帯への希望にも柔軟に対応され、最低でも週に3回は入浴が楽しめるよう対応されている。みかん湯、しょうぶ湯等、季節ごとの入浴の楽しみも用意されている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 温度、湿度に気を付け、空気清浄機や加湿器等を活用し、体調管理に気を付けている。日中は出来るだけ体を動かし、安眠の援助をしている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 主治医や薬剤師が訪問される時に薬の内容等を伺い、理解に努めている。薬の管理を依頼されている入居者様は薬局が薬の管理を行い、看護職員を始め、職員が薬剤師と連携を図り、薬の情報や入居者様の状態等の情報交換を行って、支援を行っている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 女性の方が多いこともあり、主婦として生活されていたので、洗濯物を畳まれたり、テーブルを拭かれたりと生活の中の事をされることで役割を担われている。また、編み物やうた、ゲームや塗り絵など好まれることを把握し、活動に取り入れている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している | 入居者様の希望に添ってホーム周辺を散歩したり、近隣のスーパーに買い物に行ったり、入居者様の自宅までふると訪問をして、ご家族に出会ってきたりと支援を行っている。また、季節の花やお祭りなどにも出かけている。(現在、コロナ禍で中止している。) | 個別で桜の花見、買い物、自宅周辺へのふると訪問、敷地内やホーム周辺の散歩などが実施されている。通院後、家族との夕食の機会もあり、ホーム全体での行動は難しいが、個別対応で支援されている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | お金の管理をご自分で出来る方は高額にならない程度にお金を所持され、使用されている。金銭管理が難しく、支払い等も難しい場合はご家族様にお願ひし、買い物の支払い等はお手伝いしている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 希望に添って電話や手紙などを利用し、ご家族様や友人等に連絡をとってもらうように支援している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 天井が高いことで圧迫感を無くし、開放感ある空間作りを意識して設計しており、サンデッキ、中庭、和室のスペースも広く、ゆとりと過ごせる空間作りをしている。又、季節感を感じられるように花々を飾り、自然の光を取り入れた居心地よい環境作りをしている。 | 共有スペースには、入居者が作成した壁飾りやカレンダー、季節の花々が飾られ、明るく、居心地よく過ごせるよう配慮されている。室温、光、音等にも気を配られ、気になるような匂いもなく、窓からはホーム周辺の木々や花々が眺められ、季節の移ろいが感じられる。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ホールには、テレビやソファを置くなどして自由にくつろげる空間を作っている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居前から使い慣れたもの(タンス・布団・仏壇等)を持ってきていただき、ご本人様が安心して生活出来るように配慮している。 | 家族と相談し、入居者の状態に応じ、ベッドや家具の配置を検討したり、使い慣れた好みの物が持ち込まれている。クローゼットが各部屋にあり、収納できるものはできるだけ収納し、入居者の動線を確認し、転倒予防にも気をつけられている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | ホーム内はバリアフリーとなっており、廊下、トイレ、浴室には手すりや滑り止めをつけるなどして安全かつ自立した生活を送ってもらえるように整備している。 | | |